

入学式後に軽音楽サークルのメンバー(左)に入部の誘いを  
受ける新入生=浜田市野原町、島根県立大浜田キャンパス



## 県立大浜田で入学式

島根県立大浜田キャンパス(浜田市野原町)で3日、入学式があり、258人が地域貢献や異文化理解など、それぞれの思いを胸に新生活へ入った。

国際関係学部98人、地域政策学部159人、大学院北東アジア開発研究科1人が入学した。

式では地域政策学部の豊田悠希さん(18)が学生を代表し、「多面的に物事を捉える力を身につけるため、専門知識を学び、多様な価値観にも触れたい」と決意表明。式後にはほつとした表情で、「在学時も卒業後も地域と関わりたい。課題と向き合い、解決

## 「異文化学ぶ」「地域貢献を」

できるよう取り組む」と語った。

地域政策学部に入學した広島県三次市出身の岸田爽良さん(18)は、沿海部の浜田市、山間部の三次市との違いはあれ、人口規模など類似点が多いとし、「浜田での学びは卒業後に三次でも生かせるはずだ」と意気込んだ。

国際関係学部の岩本柊花さん(18)は、韓国の理解を深めようと入学。竹島(島根県隠岐の島町、韓国名・独島)について、韓国人と口論した経験があり、「意見が違うのは当たり前。勉強して相手をよく知りたい」と話した。

県立大の出雲、松江両キャンパスの入学式は、いずれも4日にある。

(板垣敏郎)

# 本を開けば広がる世界

## 子ども読書の日に寄せて

23日は「子ども読書の日」。子どもたちに読書の楽しみや喜びを伝え、もともとを判断する力を養ってもらうこと、子ども読書活動推進法が定めている。本紙で第1土曜に連載中の企画「ようこそ、絵本の森へ」ロングセラーを読み解くことで、執筆を担当する山陰新聞ゆかりの専門家が、子どもたちへのメッセージを寄せた。

## 掲載不可



ランスト代表(松江)  
レイブラリー  
おはな  
岩田英作さん

「めづきらもちつきのおんた」という絵本は、出雲市出身の児童文学作家・長谷川朝子さんの代表作です。男の子が火焔玉をのぞくと、そこには鳥が見えたのだけれど、本は水焔玉みたいなものかもしれない。ページをめくれば、奥に東洋の童話城に行き、マッチ売りの少女に語り継ぐこともできます。読むたびに新しい世界が開き、知らない世界が広がっていくことではないでしょうか。私たちが関心しているのは、知らず知らずのうちに、子どもたちの本が、今日この頃です。

## 親子で読んだ絵本記録

### 島根推進会議がダイアリー

子どもと一緒に読んだ本を記録する「いっしょだよ」絵本ダイアリーができた。50作品分のタイトルや子どもの反応を1冊に記録できる。親子で本の時間を楽しむアイテムとして活用できそうだ。

巻末には、作品を読むことにチェックを入れるページや、子どもへのメッセージを書き込む欄を設けた。QRコードを読み込めば、家庭で印刷して使うことができる。

島根県子ども読書活動推進会議(委員長・岩田英作島根県立大教授)が、2014年から配布した「読みメシ」に代わる冊子として3500冊制作。絵本を通じた男性(父親)の育児参加を狙った「読みメシ」は、一定の役割を果たしたと判断した。

岩田委員長は、「一緒に読んだ記録は親子の絆の証し。お子さんが大きくなつてから一緒に見返すのもおもしろい」と活用を呼びかける。問い合わせは県立図書館 電話0852(2)2

2-6077、おはなレイブラリー、電話0852(2)6-5563。  
(増田枝里子)



島根県子ども読書活動推進会議が新たに発行した「絵本ダイアリー」